**題目 このテンプレートを参考にしてください**

○東大 太郎A、 本郷 花子B、 東京 次郎C

所属機関 部署等A、 所属機関 部署等B、所属機関 部署等C

1．はじめに

　予稿は総合技術研究会HPで公開いたします。また、全国の大学、高等専門学校、共同利用研究機関等に配布する要旨集には、予稿集CDとして保存します。予稿原稿のファイルサイズはWord ファイル PDFファイルとも2MB以下として下さい。

2．全体の構成

　予稿は１テーマあたり1ページまたは2ページです。短い文書なので、2.1 といった小項目は使用しないでください。

3．文章について

予稿は、読みやすい平易な日本語で記述してください。専門家でなくても理解して読み進められるように、広範な読者層を意識してわかりやすい説明や論述をお願いします。

すべての予稿について、表記の統一を図っています。以下にその例をあげますので、予稿を作成する際にあらかじめ注意してください。

句読点 和文の場合は、全角で句点は「。」、読点は「、」。ただし読点に「，」の使用も可能ですが、どちらの場合でも全文で統一して下さい。

欧文の場合は、半角で句点は「. 」、読点は「, 」。

数字 数字は基本的に半角算用数字で表記します。（例）大学1, 2年生。口頭発表18件。

中黒点 なるべく使用しません。（例）大学において教育・研究は重要である → 大学において教育と研究は重要である。

4．数式、図、表について

　数式や図、表は以下に示す例、 式 (1)、 表1、 図1のように2段組みの片側1段を使って本文中に表示します。式については、*m* d2*x* / d*t* 2 = -*kx* といった縦方向に圧縮した書き方ではなく、式 (1) のように、見やすい書式を使ってください。大きな式、図、表の場合は2段を横に抜いてページ幅いっぱいに表示することも可能です。図表のタイトルについて、体言止めの場合は、｢。｣なしで、文章として成立する場合は、｢。｣ありで書いてください。

　 (1)

表 1　表の挿入例

|  |  |
| --- | --- |
| 運動学 | 設問番号 |
| 位置と速度の区別 | 19 |
| 加速度と速度の区別 | 20 |
| 等加速度による放物軌道 | 12, 14 |



図 1　図の挿入例

　数量は国際単位系を用い、たとえば時間については、 *t* (s) のように表記してください。なお、 図は、カラー、白黒 (グレースケール) のどちらでも結構です。表の罫線は最小限にし、 データを見やすくしてください。

5．引用について

　参考文献は予稿の最後にまとめて「参考文献」という見出しの下にまとめてください。本文中では肩付き添字で引用箇所を指示します。本文中に出てきた順に番号をつけます。 参考文献の書式は、以下の文献の種類別に、このテンプレートの最後の「参考文献」を参照してください。たとえば、英文ジャーナル1)、英文書籍2、3)、和文ジャーナル4、 5)、和文書籍6)などとなります。とくに和書洋書で引用箇所を明確に示したい場合はページ数3)をつけることも可能です。著者名は長くなりすぎない限りなるべく省略せずに、全員分載せるようにしてください。

　注についても同様に予稿の最後に参考文献と同列に番号をつけます。注がある場合は、以下にあるように「参考文献および注」という見出しになります7)。

6．おわりに

　予稿の最後で簡単に記事の内容をまとめてください。

支援を受けた科研費番号などは、「おわりに」の最後に次の例のように掲載してください。末尾に連絡先のe-mail アドレスを記載してください。

　本研究は、科学研究費補助金「基盤研究C」（課題番号123＊＊＊）の助成を受けて行った。

**参考文献**

1）D. Hestenes, M. Wells and G. Swackhamer *Phys. Teacher* **30** (1992) 141-158.

2）L.C. McDermott and the Physics Education Group at the University of Washington *Physics by Inquiry: An Introduction to Physics and the Physical Sciences* (Volume 1)John Wiley & Sons (1995).

3）E. Redish *Teaching Physics with the Physics Suite* Wiley (2003) 21-30.

4） 塚本浩司、樋口幸江、加納誠　日本物理学会誌 **60** (2005) 294-297.

5）川勝博　大学の物理教育　**18** (2012) 130-132.

6） 板倉聖宣 『仮説実験授業のABC』 仮説社 (1977)．

**参考文献および注**

1）D. Hestenes, M. Wells and G. Swackhamer *Phys. Teacher* **30** (1992) 141-158.

2）L.C. McDermott and the Physics Education Group at the University of Washington *Physics by Inquiry: An Introduction to Physics and the Physical Sciences* (Volume 1)John Wiley & Sons (1995).

3）E. Redish *Teaching Physics with the Physics Suite* Wiley (2003) 21-30.

4） 塚本浩司、樋口幸江、加納誠　日本物理学会誌 **60** (2005) 294-297.

5）川勝博　大学の物理教育　**18** (2012) 130-132.

6） 板倉聖宣 『仮説実験授業のABC』 仮説社 (1977)．

7）FCIは1995年に改訂されている。1995年版は論文としては公表されていないが、下のサイトから入手できる。本稿は1995年版にもとづいている。

　 http://modeling.asu.edu/R&E/research.html

連絡先

E-mail：honyarara@ad.s.u-tokyo.ac.jp